

12月21日（2学期終業式）

人生に「失敗」はない

平成30年も残すところあと9日です。今日は1年を振り返る日でもあり、明日から来年に向けて「こういう風に生きてみよう」と誓いを立てる日でもあります。

今年1年を象徴する漢字は「災」でした。では皆さんの1年を象徴する漢字は何ですか。私にとっては「挑」の1年でした。この4月、人生で初めて口加高校の校長という仕事に挑んだ年でした。私たちの人生は「挑戦」の連続です。そしてその先にある結果は、とてもうまくいくこともありますし、まあまあだったり、まったく駄目なこともあります。

「失敗」。これを何と読みますか。この漢字の意味は「やりそこなうこと。目的を果たせないこと。予期した効果をあげられないこと。しくじること」です。今年1年を振り返って、この漢字の表す意味のことが何かあったか思い出してみてください。

プロ野球のヤクルトスワローズや楽天イーグルスの監督を務められた野村克也さんを知っていますか。ご自身も南海ホークスのキャッチャーとして活躍され、監督としても優勝請負人と言われるほど一流の監督でした。最下位争いをしていたヤクルトスワローズを監督在任の9年間のうち、リーグ優勝4回、日本一に3回導かれました。

このようにご自身が一流の選手であり、また一流の監督であった野村克也さんは、「失敗」を「せいちょう（成長）」と読むとおっしゃっています。プロの世界でもミスやエラーはあります。三流が三流のまま終わるのか、三流から一流になるのか、そのミスやエラーをした後で決まるとおっしゃっています。成功や勝利から学ぶものはほとんどない。人間は負けや失敗から多くのことを学ぶということです。

確かにそうです。私たちが自分と向き合い、考えるのは良くない状況に置かれたときです。例えば、健康な人が「なんで自分はこんなに健康なんだろう」とは考えません。病気になって「何んで病気になったんだろう」と考えるんです。「なんで試合勝ったんだろう」とは考えません。「なぜ負けたんだろう」と考えるんです。試験で「なんでこんないい点を取ったんだろう」とは考えない。「なんでこんなに勉強しているのに点が取れないんだろう」と考える。結局、有能な人間は、失敗や負け、よくない状況から学ぶから有能なんです。成功から学ぶものなどたかが知れているんです。

ジャパネットたかたの創業者である高田明さんは講演で「私は1度も失敗したことがない」とおっしゃいました。「なぜならば、チャレンジした結果がどうであれ、全てが学びであり、全てが次につながって今の自分があるので、私は失敗とは思ったことがないんです。」とおっしゃいました。

11月にみんなの先輩である早野忠昭さんに「変化を恐れず挑戦していく力」と題して講演をいただきました。質疑応答の中で「失敗したらどうすればいいか」という質問に対して、「失敗したらまず落ち込めばいいんじゃないでしょうか。」とおっしゃいました。そして何かに臨むにあたっては「周到に準備をすることが大切である」こともおっしゃっていました。

そうです。失敗したら落ち込めばいいんです。へこんで、悩んで、部屋の電気を消して蒲団かぶって泣けばいいんです。そういう人は必ず伸びる。逆に、失敗してもへらへら何

にも感じない鈍感な人は、また同じ失敗を繰り返す人だと思います。

失敗したらどうしようと思っている人には成長はありません。失敗は一步踏み出して行動してるものみに与えられる成長のチャンスです。行動してないものには失敗がないし、成功も成長もないのです。もっと言えば、「失敗のない人生ほど失敗なものはない。」

車やバイクのメーカーである HONDA の創業者、本田宗一郎さんは言いました。

私がやった仕事で本当に成功したものは、全体のわずか 1% にすぎない。99% は失敗の連続であった。そして、その実を結んだ 1% の成功が現在の私である。

京セラの創業者であり、倒産した日本航空を再建させた稲盛和夫さんは言いました。

世の中に失敗というものはない。チャレンジしているうちは失敗はない。諦めた時が失敗である。

今日の終業式では、次の2つのことをみんなで誓いたいと思います。

まず一つ目は、「人生に失敗はない。すべて学びと成長である」ということ。

二つ目は、「失敗を恐れるな」と言うのはやめること。なぜならば、失敗を恐れるな、といのは失敗というのはしでかしたら恐ろしいもんだぞということを前提にしているからです。そういうことを言われると「失敗したら怖いな」と、逆に一步を踏み出せないんです。皆さんが何かチャレンジするときは、「成功を祈ります」ではなくて「失敗を祈ります」ぐらい言って背中を押したいと思います。

3年生は年が明けたら受験に「挑」みます。人生に失敗はありません。全ては学びと成長です。堂々と入試という関門に挑んでください。

では、最後に野村克也さんの著書「負けかたの極意」の一節を、放送部の●●さんに朗読してもらって話を締めます。

『考えてみると、私の人生はある意味、負け続けであった。何をしてもすべて負けからスタートしている。最初からうまくいくことなど一度もなかった。うまくいくように思えた時でも、必ず壁にぶつかり、跳ね返された。

けれども、その都度、自問した。「なぜ、うまくいかなかったのか。何がいけなかったのか。」

原因を突き止めたら、次はこう考えた。「どうすればうまくいくのか。そのためには何をすればいいのか。」

試行錯誤を繰り返すなかで、少しずつ進歩していった。私の人生は、まさしくその連続だった。「どうすればいいのか」「何が足りないのか」と、もがき、苦しみ、懸命に頭を使い、知恵を振り絞り、「こうしたらうまくいくのではないか」「これならどうだ」と試行錯誤するなかで、人間は成長する。ほんとうの実力を身に付ける。

私はつねづね言っている。 「失敗と書いて、せいちょう(成長)と読む。」